

キャリア教育の実践

明和町立明和中学校

明和町キャリア教育推進事業計画では、キャリア教育を総合的に推進するために縦と横の連携機能をもった組織の編成を位置づけている。昨年度、明和中学校では小中交流活動に重点を置き、小学校と縦の連携を強化する取り組みを展開してきた。そこで、今年度は職場体験を中心とした横の連携に視点を置いた取り組みを進めている。

職場体験は、キャリア教育を推進していくための極めて重要な学習活動であるが、一過性の行事として扱われる場合が多く、その教育効果や機会が十分に生かされていない実態がある。職場体験を実施した効果としては、勤労観・職業観の芽生えによる職業や働くことへの関心の高まりや、前向きに自己の将来を設計する力や自らの意志と責任によって進路選択をする力の高まりが期待されるが、これらの効果は職場体験学習実施期間中だけでなく、三年間を通した系統的なキャリア教育や事前・事後の指導の充実により得られるものである。本校でも、第2学年で三日間の職場体験を実施しているが、体験先の確保や事前準備（安全・緊急対応の確認、社会性やルールに関する指導）に多くの時間が割かれており、系統的な指導計画の作成や事前・事後指導の充実が必要な実態が見られたため、その充実に向けて今年度次のような方策を行ってきた。

①職場体験を中心とした系統的な指導計画の作成

まず、職場体験（本校では2年次に実施）を中心として、その前後にあるキャリア教育に直接結びつく活動の洗い出しと整理を行った。職場体験に生かされる事前・事後の活動を把握し、ねらいや身に付けさせたい力につながりが見られるよう整理することで、それぞれのねらいがより明確になり、職場体験がより効果的な学習になると考えられる。

事前	1年次	「職業インタビュー」	・実社会との関わり
		「校内ハローワーク」	・職業について幅広い視点 ・仕事をすることの喜びや厳しさの理解
		「職場体験に向けて」	・体験のねらいや自己の課題の確認 ・マナーや礼儀についての確認
		職場体験実施	
事後	2年次	「職場体験発表会」	・体験の深化、共有化 ・職業観の広がり
		「上級学校調べ」	・進路学習に向けた動機付け
		「上級学校体験授業」	・日常の学習活動への動機付け ・進路選択に向けた動機付け
	3年次	「進路計画づくり」	・暫定的な進路選択 ・将来の夢や生き方の現実的探索

②職場体験の事前・事後指導の充実

職場体験の事前指導では、ねらいを明確にして、自己の課題を発見することが重要であり、事後指導では、生徒間で体験したことを共有したり、働くことの意義を振り返ったり

【職場体験学習・事前】

Planシート

年 組 氏名

【職場体験学習・学年目標】

- ・自分の仕事を覚え、分からないことは質問して、協力して活動しよう。【コミュニケーションの力】
- ・苦手なことや自信のないことにも、進んで取り組もう。【進んで行動する力・忍耐力】
- ・見通しをもち、よりよい方法を考えたりしながら活動しよう。【よりよく問題を解決する力】
- ・「働く」とはどんなことか、大切なことは何か考えよう。【自分に将来について考える力】

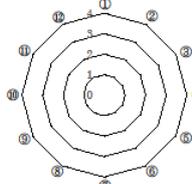
【職場体験学習・個人目標】 学年目標を参考に、自分の目標を1つ立てましょう！

目 標

観察のポイント

どんなところを見たいか・知りたいか

○自分の今を確認しましょう！

- キャリア
アンケート
まとめ
- 
- ①+②+③= 点 【コミュニケーションの力】
 - ④+⑤+⑥= 点 【進んで行動する力・忍耐力】
 - ⑦+⑧+⑨= 点 【よりよく問題を解決する力】
 - ⑩+⑪+⑫= 点 【自分に将来について考える力】

仕事や働くということへの今のイメージ

という仕事から連想すること



【職場体験学習・事後】

Checkシート

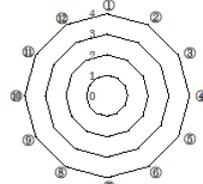
年 組 氏名

【職場体験学習・個人目標 自己評価】

個人目標の達成度 できた 5・4・3・2・1 できなかった

どうして、この評価にしたかというところ・・・

○職場体験を終えた、自分の今を自己評価しましょう！



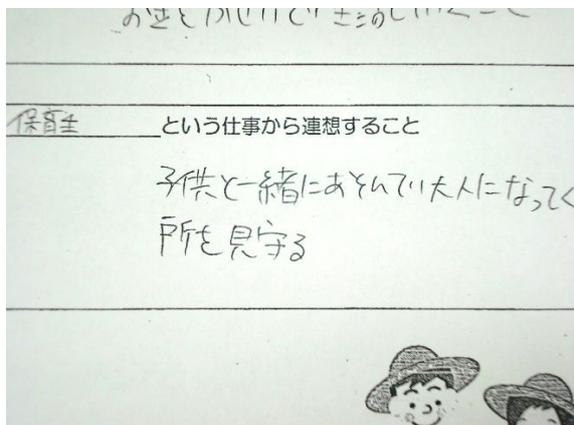
仕事や働くということへの今のイメージ

という仕事について、今、思うこと

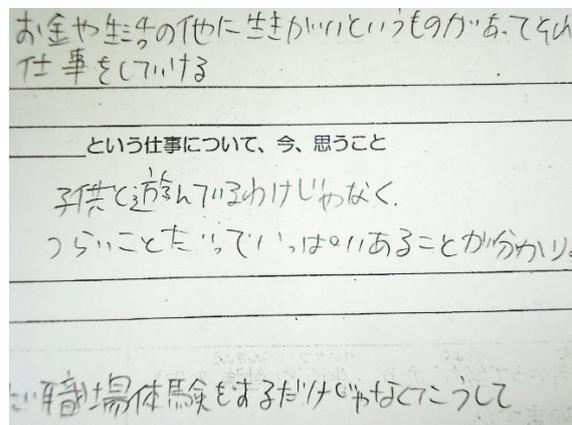
感 想

生徒のワークシートでは、事前・事後で次のような記述が見られた。

【事前】



【事後】



一見すると、この生徒は職場体験を通して保育士という職業にマイナスのイメージをもったように見える。しかし、これは働くことの厳しさを学んだ姿の表れであって、キャリアプランニング能力が高まった姿であるといえる。職場体験の事後指導では、特に、この

ような自己の変化・成長に客観的に気付く機会を大切にしたい。事前から事後までにつながりをもたせ、仕事や働くことのイメージの変化、大人の働く姿を見て感じた自己の課題などを捉えさせることで、効果的な職場体験とすることができると考える。